



糖尿病では眼科受診が大切です！



今年、iPS細胞の研究で京都大学の山中教授がノーベル賞を受賞されました。そのうち、iPS細胞からインスリン産生細胞が作られて、糖尿病が治ってしまう時代が来るのでしょうか？

さて、今日は、**糖尿病網膜症**についてお話したいと思います。網膜症は糖尿病の3大合併症の1つです。ちなみに、他の2つの合併症は神経障害と腎症です。神経障害の「し」、網膜症(目)の「め」、腎症の「じ」を合わせて、「しめじ」を糖尿病の3大合併症として覚えておいてください。

網膜症とは、目の奥にある網膜に生じる病気です。人間の目をカメラに例えると、網膜はフィルムに相当する所で、網膜には光の明るさや色を感知する神経細胞が1億5千万個もあるそうです。網膜の神経細胞が感知した光の情報が脳に送られて、我々は物を見ているのです。この神経細胞たちに栄養や酸素を送る毛細血管が網膜には張

り巡らされています。糖尿病の慢性的な高血糖があると、網膜の毛細血管が閉塞してしまったり、破けて眼底出血を起こしてしまいます。これが糖尿病網膜症です。

糖尿病になっても、急に網膜症が悪くなるわけではありません。血糖コントロールが不良であるとゆっくりと網膜症が進行します。また、初期の網膜症は、眼底に小さな出血や白斑などの網膜症の所見があっても患者さんは無症状であるので、注意が必要です。網膜症は以前は日本人の失明原因の第1位でした。しかし、最近は眼科治療が進歩して、きちんと眼科に通院していれば失明することがかなり避けられるようになり、網膜症は失明原因の第2位に後退しました。それでも今でも年間三千人ほどの日本人が糖尿病網膜症で失明されていますので、**糖尿病と診断されたら、症状はなくても年1回は眼科受診**していただくことが大切です。

愛媛県の道後温泉に行ってきました。



愛媛県松山は私の母の田舎です。松山城を中心とした城下町です。松山に明治時代からある道後温泉に行ってきました。松山で英語教師をしていた夏目漱石は道後温泉が大好きだったそうです。小説「坊っちゃん」にもその様子が描かれています。「坊っちゃん電車」という小さな汽車で道後温泉に行くと、駅ではマドンナと赤シャツが迎えてくれて、記念写真を撮りました。楽しい旅でした。(内田)



自己紹介：中村晋（なかむらすすむ）副院長

中村晋（なかむらすすむ）と申します。ほたるのセントラル内科でこれから診療をさせていただきます。院長と同じく内科のとくに内分泌代謝科を専門にしております。生活習慣病やホルモンの病気などを診るのが内分泌代謝科の仕事です。代表的な病気には糖尿病や甲状腺の疾患があります。患者様が健康で長生きができるように一緒に考えていければと思います。そして風邪や腹痛など急性の病気にも可能なかぎり対応させていただきます。必要な場合には連携している専門の病院を紹介をい



たします。どうぞよろしくお願い申し上げます。



持続血糖モニタリング (CGM)ができます。

糖尿病患者さんの血糖変動を3～4日間持続して記録できる機械：iPro2をクリニックで用意いたしました。1型糖尿病などで血糖が大きく変動され困られている患者さんの役に立てればと思っています。

